

発寒ひかり  
保育園だより

2022年  
12月号

巻頭言

先日、ある大学の先生より、学生が卒業論文で「絵本」についてまとめるので、その学生の見学・聞き取りを受け入れてもらえないだろうかと相談がありました。お役に立てるかどうかはわかりませんが・・・との断りを入れ受け入れたのですが、改めて「絵本」について考えるきっかけになりました。

当園でもお昼寝前や活動の際など、日常の中で絵本を読む機会があります。また、ファミリー（異年齢グループ）の部屋の絵本を月に1回子どもたちが選んで取り替えたりのもしています。成長してくるにつれ、子ども自身が自分で絵本を見る・読むという姿も出てきますが、保育者に読んでもらう事も多いです。

以前、絵本についての研修を受けた際、大人（読み手）はどうしても読むために文字を追いがちですが、一度他の人に読んでもらって、是非「絵本」自体を楽しむ体験をして下さいと言われていました。

絵の楽しさや、そのページに込められている沢山のヒントに気付いたり、動かないはずの絵が想像の中であたかも動いているように感じたり。また、絵本を通して、自分が経験してきた以外の事も味わえたり、「死」や悲しみにも絵本の中で出会うことが出来ます。

『耳で言葉を聴くことが、生きた言葉を身につけ、言葉の力と働きを身体で感じとるもつともよい機会（絵本のよろこび・松居直著）』とも言われています。大好きなお父さんやお母さんに読んでもらう事が、喜びと共にとても豊かな時間となるのではないでしょうか。

園長 阿部 尚子